

恭賀新春

本行行事予定

一月 一日 午前八時	修正会（元旦のお参り）
二月十五日 午後一時	定例法座
三月二十日 午後一時	春季彼岸会法要
四月十五日 午後一時	定例法座
五月十五日 午後一時	花まつり法座
六月十五日 午後一時	定例法座
七月十五日 午後一時	定例法座
八月十六日 午後一時	孟蘭盆会法要
九月八〜九日	宗祖聖人報恩講法要
九月二十三日 午後一時	秋季彼岸会法要
十一月十五日 午後一時	定例法座
十二月十五日 午後一時	定例並びに大掃除

2013（平成25）年

北広島市大曲緑ヶ丘2丁目16-1 011-376-2255

浄土真宗本願寺派 興徳寺

<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/kentyan/>

効率が絶対とされ、非効率は排除されるのが現代だろう。しかしこんな時代だからこそ非効率や少しの不便さを提言したいと思う。以前テレビドラマ「男たちの旅路」の中でこんなシーンがあった。仕事をマニュアルだけにしばられ、地域外の事件を聞きながら見逃したガードマンに鶴田浩二の上司役が「靴屋に靴の傷みを直しに来たときに、お前はどつするの」と問う場面だ。そういうような現象が日本中のそこかしこで現出している。火が出ていても既定の大きさにならないと水を出せない消防隊、事件性が無ければ操作できない警察、小さな事故で済むはずなのにマニュアルに縛られる大きな事故を惹起してしまふ。それを破れば責任を問われ硬直された考えにならざるをえなくなってしまう。法とか既定とは何なのか、私たちはもつと自由になって良いと思う。右か左か、ではなくもつとあいまいさがあつてらどうだろう。東洋的な視野とはこんな世界なのだ。仏教の精神はどんなものをも包括していく広い世界観を持っている。時代の進歩が、あいまいが許されなくなっている。少しのミスも許されずがんじがらめに縛られる世界は息がつまりはしないか。自由さが許される社会になってほしいと思う。